

第1学年4組 学級活動(1)指導案

第1学年4組(児童数 27名)
指導者 加納 潤

1 議題 「6年生にありがとうを伝える会を開こう」

【学級活動(1)ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決】

2 児童の実態

本学級の児童は、何事にも前向きで、当番活動にも一生懸命に取り組む児童が多い。入学してから、給食当番や掃除当番等の活動を通して、友達と協力するよさやみんなのために活動するやりがいを経験してきた。また、2年生との学校探検や合同遠足での関わりの中で、感謝の気持ちを持ち、伝える活動に前向きな姿が多く見られた。しかし、相手の話到最后まで耳を傾けることができない、自分の思いがあっても伝えられないなど、話し合い活動の中で、課題がある児童もいる。そこで、相手意識を持ち、話を聞いたり自分の考えを伝えたりすることができるように、ペアトークやグループトークなど、スモールステップで指導をしている。その結果、最後まで相手の話を聞いたり、すすんで発言しようとしたりする姿が少しずつ見られるようになってきた。

6月に教師が司会グループ役をしながら学級会の進め方や話し合いの約束など、学級会の行い方についてのオリエンテーションをした。その後、「1学期、頑張った会の計画を立てよう」の議題で話し合い、実践を行った。1時間の前半で話し合い、後半で実践するという内容を通して、児童はみんなで決めた遊びで楽しく遊ぶことも経験している。2学期には「2年生ありがとうの会をしよう」や「係活動をしよう」などの議題に対して、取り組んだ。自分たちで感謝の気持ちを伝えられる遊びやプレゼントを決めたり、他学年にどのような係活動があるか取材したりするなど、やりたいことを計画し実現する充実感を得ている。

本議題は、「卒業する前に、6年生にありがとうを伝えたい。」という児童の思いから提案された。話し合いを通して、感謝の気持ちを伝えるとともに、温かな気持ちで6年生が卒業する姿を応援させていきたい。

3 本時のねらい

6年生との関わりを思い出し、6年3組に感謝の気持ちを伝える会の内容や工夫を決めることができるようにする。

4 指導計画

議題	6年生にありがとうを伝える会を開こう	
提案理由	にゅうがくしてからいままて、6ねんせいにくさんおせわになった。そんな6ねんせいにかんしゃのきもちをつたえるために、できることをはなしあいたい。	
司会グループ	司会、黒板記録、ノート記録、時計	
話し合いの順序	教師が気を付けること	目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
1.はじめの言葉 2.司会グループの紹介 3.議題の確認 4.提案理由の確認 5.決まっていることの確認 6.話し合うことの確認 7.話し合いのめあての確認 8.話し合い 話し合うこと① 「6年生にありがとうを伝える会で何をするか」 話し合うこと② 「さらにありがとうが伝わるような工夫を考えよう」 9.決まったことの確認 10.振り返り 11.先生の話 12.終わりの言葉	<ul style="list-style-type: none"> 提案理由を明確にして話し合いが進められるようポイントとなる言葉に印を付ける。 (4について) 意見をあらかじめ短冊に記入し、比べ合う段階から話し合う。(8について) 提案された意見のイメージが共有できるように、事前に確認したものを提示する。 (8について) 提案理由を意識しながら、意見を組み合わせたり発展させたりしながら検討する。(8・9について) 児童の意見のよさを見付け、称賛したり、次への意欲をもてるようにする。(11について) 	<ul style="list-style-type: none"> 提案理由に沿って、意見を発表したり、友達の考えを受け止めたりして話し合っている。 【思考・判断・表現】〈発言・観察〉 自己の考えを持ち、話し合い活動に参加しようとしている。 【主体的態度】〈発言・観察〉

5 指導上の留意点

・事前に出された意見を短冊に書いて掲示しておくことで話し合いが円滑に進むようにする。